

# CASBEE とっとり

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(福島版) 2008年版 使用評価ソフト: CASBEE-NCh\_2008(v.3.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	いきいきシアター上後藤	階数	地上4F
建設地	鳥取県米子市上後藤4丁目185番1	構造	S造
用途地域	第1種中高層住居専用地域	平均居住人員	76人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2013年4月 予定	評価の実施日	2012年9月7日
敷地面積	2,448 m <sup>2</sup>	作成者	坂本浩志
建築面積	785 m <sup>2</sup>	確認日	2012年9月7日
延床面積	2,618 m <sup>2</sup>	確認者	坂本浩志

外観パース等  
 図を貼り付けるときは  
 シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 大項目の評価 (レーダーチャート)	2-3 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)
<p><b>BEE = 1.2</b> ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B*: ★★★★★ C: ★★★★★</p>		<p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>

2-4 中項目の評価 (バーチャート)		
<p><b>Q1 室内環境</b> Q1のスコア= 3.1</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> Q2のスコア= 3.7</p>	<p><b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> Q3のスコア= 3.1</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b> LR1のスコア= 3.3</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> LR2のスコア= 3.6</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> LR3のスコア= 2.4</p>

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b>                      オール電化建物とし、オール電化厨房や、給湯設備にもエコキュートを採用するなど、環境負荷の削減を意図した建物としている。</p>	<p><b>その他</b>                      0</p>	
<p><b>Q1 室内環境</b>                      居住エリア、共用エリアをゾーニングするなど、建物利用の特性使用条件を考慮し、適切な計画とした。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b>                      バリアフリー性に配慮し、入居者がスムーズに利用できるような配慮した。</p>	<p><b>Q3 室外環境 (敷地内)</b>                      適切な駐車台数を確保している。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b>                      建物外皮性能の向上を意図した計画とした。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b>                      節水型器具の採用などを意図した計画とした。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b>                      隣地境界に目隠しフェンス・フェンス等を用いて、周辺との防犯性・プライバシーの確保に配慮した。</p>

4 重点項目		
重点項目	得点	取組み度
県産材利用の推進	点 / 20点	
鳥取県認定グリーン商品利用の推進	点 / 25点	
自然エネルギー変換利用の推進	点 / 25点	
敷地内緑化の推進	15点 / 25点	
合計	15点 / 95点	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される